

院長コラム

聖書の一節から
From the Bible

*While we do not look at the things which are seen,
but at the things which are not seen.
For the things which are seen are temporary,
but the things which are not seen are eternal.*

2 Corinthians 4:18 (New King James Version)

わたしたちは見えるものではなく、
見えないものに目を注ぎます。
見えるものは過ぎ去りますが、
見えないものは永遠に存続するからです。

コリントの信徒への手紙二4章18節(新共同訳)



西南学院 院長
いまい なおき
今井 尚生

この世のさまざまなものが私たちの目を奪うのは、昔も今も変わりません。それは、五感の中でも視覚から得られる情報量は最も多く、しかも瞬時に判断を下せるからです。他方、聴覚を通してまわりのある情報を得ようとすれば、ある程度それに耳を傾けて考える時間が必要になります。ただし、視覚情報は瞬時にもたらされるとはいえ、それが判断の根拠として、事柄の正しい理解につながるかは、別問題です。

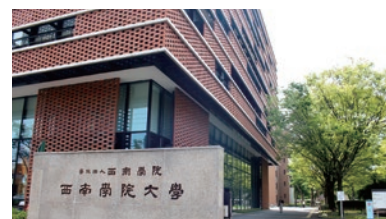
SNSをはじめとする映像技術の発達した今日、見た目だけのものに心を奪われる、ルッキズムが私たちの文化に大きな影響を与えるようになりました。しかし、聖書はいにしえから、本当に大切なもの、永遠に存続するものに目を注ぐようにと、私たちに語りかけています。子どもたちに本当に価値のあるものを教えるとともに、私たち大人もまた、永遠なるものに心を寄せて生きていきたいものです。

 School Organization Chart

1万人を超える学生、生徒、児童、園児が通う西南学院。

西南学院は、保育所・幼稚園から大学・大学院までを擁する全国でも数少ない総合学園です。

保育所から大学院まで一貫した理念に基づいて、保育、教育を実施しています。 ※データは2026年7月現在



西南学院大学

学生数:約8,400人

1949年開設。人文・社会科学系の総合大学です。開学当時からキリスト教に基づく人格教育を実践してきました。また、1971年に他大学に先駆けて国際交流制度を導入し、外国語教育をはじめとする国際教育の充実・向上を図っています。長年にわたって培われてきた伝統は、社会的に高く評価されており、同窓生たちは、九州の経済界をはじめ、教育、マスコミ、法曹、福祉など多方面で活躍しています。



西南学院中学校・高等学校

【高等学校】生徒数:約1,310人

全年年、毎日1限目から7限目まで7時間の授業が行われています(月曜のみ8時間)。多様化する大学入試にも対応できるように、習熟度や進度の違いに配慮して授業を実施しています。知識の習得はもちろん、物事の善し悪しを判断する知恵と「自分にしてほしいことを隣人に行う」という積極的な生き方を身に付け、それをいかに社会で生かしていくかを学びます。

【中学校】生徒数:約650人

一人ひとりが授かった能力や個性を最大限に伸ばすことができる教育を目指し、中高一貫教育を実施しています。6年間にわたるゆとりあるカリキュラムと恵まれた環境の中で、生徒たちが自ら考え、自発的に学ぶ姿勢を身に付けると同時に、聖書の学びやクラブ活動、国際交流、ボランティア活動等を通して、豊かな人格形成ができるように配慮した教育を実施しています。



西南学院小学校

児童数:約430人

2010年に開校した、西南学院の中で最も新しい学校です。心身ともに成長著しい小学校の課程において、キリスト教の精神に基づいた教育理念のもとに「隣人愛を育む」「知恵を育む」ことを目標として、平和な未来を創る子どもたちの育成に努めています。環境に配慮して設計された校舎内のアトリウムは常にやわらかな光が注ぎ、約2万7千冊の蔵書を誇る図書館や、毎朝のチャペルを中心に、日々教育の質的向上が図られています。



舞鶴幼稚園

園児数:約130人

福岡市内で最も歴史のあるキリスト教主義の幼稚園です。「心ゆたかであたたかいひかりのこ」を目指して、太陽と土と水と緑に触れながら感性豊かに育ち合う子どもたちを育成しています。一人ひとりの子どもの気持ちをくみ取ることができるよう、各クラスを複数担任で受け持っています。思いやりの心を培いながら、個性豊かに伸び伸びと生きていく力を育む保育を実施しています。



早緑子供の園(保育所)

園児数:約100人

0歳児から5歳児までの園児が長時間生活する場として、家庭的な雰囲気ときめ細かな育児を心がけています。「神様に愛され守られて成長していく一人ひとりの子どもを大切に」というキリスト教を礎とした保育理念を柱に、子どもたちが神様の深い愛に包まれている安心感を持ちながら、生きる力の基礎となる心の土台を育んでほしいと願い、保育を進めています。

Vol. 19

September 11, 2026

西南学院広報誌

赤煉瓦通信

～一粒の麦から～

2026年9月11日発行(年2回発行)
学校法人西南学院 総合企画部 広報課
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
TEL.092-823-3248
koho@seinan-gu.ac.jp

【「一粒の麦」について】

「一粒の麦」は、イエス・キリストが言われた「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒の麦のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」を語源としたものです。広い世界の中で、西南学院は「一粒の麦」であり、西南学院で学ぶ一人ひとりもまた「一粒の麦」と言えます。「一粒の麦」が持つ可能性を信じ、社会のために尽くしていくこそが創立者の思いであり、今もお大切に受け継がれています。

西南学院

<https://www.seinan-gakuin.jp>

西南学院大学・大学院

西南学院中学校・高等学校

西南学院小学校

舞鶴幼稚園

早緑子供の園(保育所)

西南学院広報誌

あか

れん

が

赤煉瓦通信 Vol. 19

September 11, 2026

～一粒の麦から～

【特集】



西南学院

[特集]

西南学院と食

食材に触れ、共に作り、同じ食卓を囲む。

そんな一つひとつの経験が、食べる喜びや人と人とのつながりを育みます。

西南学院では、生活や学びの中で「食」を身近に感じる機会を入りに、

心身を育てる食への興味や、

感謝の心を育むことを大切にしています。



園庭の葉の実。食べたことがないものや
苦手なもの「みんな一緒なら」と
挑戦する気持ちに

舞鶴幼稚園

みんなで料理するひとときも宝物。
毎日の食事を、おいしく楽しい時間に。

舞鶴幼稚園では、子どもたちが協力しながら料理をする活動を行っています。保育の中で料理に取り組む体験には、さまざまな学びがあります。包丁をはじめとした調理道具を実際に使い「食材を小さくすると食べやすい」「調味料を加えたり、焼いたりするとおいしくなる」という気づきや発見があります。献立も子どもたち自身で考えるな

ど、主体性を大切にしています。年少のうちは先生が調理をする様子を見るのが中心ですが、学年が上がるにつれて自分たちで皮をむいたり、ちぎったり切ったり、時には町に出かけて食材の調達の方法を学ぶこともあります。みんなで共同作業をすることで、協力して一つの料理を作り上げる達成感を得られ、仲間関係の構築に

もつながります。園庭に実った桑の実をジャムにすることや、自分たちで育てたピーマンやナスを料理して食べることもあります。料理についての知識や学びだけでなく、料理や食事の時間が楽しく感じられ、食の喜びやおいしさに対する興味や関心が広がるきっかけにもなっています。



早緑子供の園（保育所）

野菜が育つ過程を見ることで愛着や興味が増し
心身の健やかさを支える食事に感謝の気持ちを持つように

心身の成長に必要な栄養をバランス良く取れる献立はもちろんのこと、発達に合わせた硬さや大きさ、形状のものを提供しています。姿勢良く食べられるように、体に合った椅子とテーブル、子どもが扱いやすいスプーンや陶器の食器を使います。

トウモロコシやソラマメの皮むきなどを子どもたち自身で行うことで、食材に親しみを持つきっかけになり、苦手な食材でも食べてみようと思えることも多いです。園庭のプランターでミニトマ

トやオクラなどの野菜を育て、成長の過程を見ることで食への関心や食べ物を大切にする気持ちを育みます。

また、食前のお祈りを通じて、神様や生産者、調理してくれた方への感謝の気持ちを持つ機会も重ねています。年長児が年少児に配膳をしたりマナーを教えたりと、食事の時間が人と関わり、安心や愛情を感じられる時間であることも伝わるような工夫をしています。



感謝の気持ちを忘れずに「いただきます」

みんなで大事に育てた野菜を食べて心も体も健やかに

西南学院小学校

食を囲む時間で人とのつながりを育み
感謝の心と健やかな成長を支える給食

西南学院小学校の給食は、栄養バランスが取れた献立に加え、季節の食材や行事食、郷土料理、世界の料理などを通じて、多様な食文化に親しむ機会になっています。

ランチルームでの縦割り給食では、学年が異なる仲間と食卓を囲むことで、自然と隣人愛や協調性、励まし合う気持ちが育まれます。1年生は6年生に配膳を手伝ってもらいながら少しずつやり方やマナーを覚え、学年が上がるにつれて自分たちで役割をこなせるようになります。また、小食や好き嫌いに不安を感じる児童も、周りの友達に励まされながら、少しずつ食べる喜びを見つけています。

食前には栄養教諭からその日のメニューの栄養やおいしさのポイントについての解説を聞き、ご飯とおかずを組み合わせながら味わう日本ならではの「口中調味」を通じて、味の発見や食の魅力に気付く機会を設けています。

さらに、食の大切さやフードロスについて考えたり、地域の果樹園や農園、漁師、水産加工会社の方を講師として招いたり、毎年1月の「全国学校給食週間」には給食室の方や食材を届けてくれる方々へ感謝のメッセージを送ったりするなど、小学校の給食は社会とのつながりを感じながら食の魅力に触れる時間になっています。



地域の農家の方を講師に迎え、献立に取り入れられている地元の食材と、地域社会との結びつきについての学びを大切に

熱いから気をつけてね



異なる学年で食卓を囲み、思いやりや協力する心を育む縦割り給食



旬の食材や郷土料理から食文化への興味を深めるとともに、下ごしらえ（皮むき）を体験したグリーンピースを取り入れた献立

西南学院小学校

食べることから始まるSDGs 水産業の工夫と資源の大切さを学ぶ

5年生は社会科の授業で、水産加工会社「アキラ・トータルプランニング」の方から水産業とSDGsについて学びました。これまでは廃棄されていた魚の骨や身を、加工品や飼料として活用し、廃棄率を大幅に減らす取り組みが進められていることを知り、実際に商品として開発された「ぶりの魚(ギョ) ロッケ」も給食で実食しました。食を通して、資源を大切にすることや持続可能な社会について考える機会となりました。



水産加工会社の方を招いて水産業とSDGsについて学ぶ

西南学院中学校

米作りから学ぶ命と食のつながり バケツ稲作りを通して実感する食のありがたさ



中学1年生の理科の授業では、JAグループの「バケツ稲作りセット」を用い、理科係を中心に通年で米作りに取り組みました。発芽から観察を続け、田植え、稲刈り、脱穀・粳攪りまでを行い、玄米になるまでの過程を体験。最後は完成したほんの一握りの玄米を白米と混ぜ、おにぎりにして全員で食べました。自分たちで育てた米のおいしさと、なじみのある食が、いくつもの過程を経て食卓に並んでいることを学びました。



自分たちで育てた玄米を一粒一粒無駄にしないよう大切に炊き、おにぎりにして食べ、収穫の喜びを実感



を通じて、命や資源の尊さ、社会とのつながりに触れる
気づきや学びの機会がたくさんあります。

西南学院中学校・高等学校

理科系部活

育て、解剖し、残さずいただく 理科系部活で学べる 「食」への敬意

中学校・高等学校には、13の理科系教室やバイオミュージアムなど、理科を学び、探求するための施設が充実しています。こうした環境を生かし、理科系の部活動でも、生徒たちが主体となって観察や実験、研究活動に取り組んでいます。中学校の科学同好会では、みそを仕込み、育てた野菜と合わせてみそ汁を作るなど、育てることと食べることをつなげた活動を実施します。高校生物部では、文化祭で毎年「鶏の解剖」に取り組み、生物の体を観察することで命の大切さや尊さを感じる機会になっています。



自然や命に感謝しつつ、野菜を育てる奥深さを知り、共に料理を食べる経験を通して仲間とのつながりを深めます



Voice

動物も植物も命。 自然の美しさへの感動や 敬意も大切な学び

自ら解剖することで、普段何げなく食べている動物や植物を、安全に食べられるよう加工してくれている人たちのことを考えるようになりました。

西南学院高等学校3年
高校生物部・部長
よしだ けいのすけ
吉田 京ノ介さん

(左下写真)鶏の解剖を担当
(右下写真)左から5番目



西南学院大学

国際寮・クッキングイベント

国際寮では「食は一つの言語」 おいしさを囲んで育む、 国境を超えた絆

国際寮HEKIHAでは、ちらしずしやお吸い物など日本食を作るクッキングイベントを開催。宗教上食べられないものがないかを確認したり、箸が使えない人にはスプーンやフォークを用意したりと、細やかな配慮をしています。「すしおけを初めて見た」という留学生の声も多く、日本食の彩りの豊かさに驚きの声が上がります。回を重ねるごとに、留学生も一緒に調理や後片付けまで主体的に関わるようになっていきます。国際寮では「食は一つの言語」と考え、一緒に料理し、同じご飯を食べることが、言葉や国籍を超えて絆を深める大切な手段となっています。



イベントを企画した
レジデント・アシスタント(RA)の学生たち



お米の炊き方や野菜の切り方一つにも文化の違いが。一緒にキッチンに立ち料理することで、お互いの食文化を学びます

行事食・郷土料理研究

行事食が広げる食育と文化理解 食は、健康な生活や豊かな人間形成の基盤

人間科学部児童教育学科・岡田みゆき教授のゼミでは、家庭教育を専門とし、幼児期の食育や「行事食」「郷土料理」をどう伝えるかを研究しています。例えば、お正月や節句など身近な行事食を通して、子どもたちが地域社会や伝統文化に親しみを感ぜられることを大切にしています。特に幼児期の食事には成長や健康のための栄養補給や楽しみだけでなく、三度の食事を通して安全で健康な生活の基礎を築き、豊かな人間形成につながる大事な意味があると考えています。

ゼミの学生たちが研究成果を披露するために参加した「食育発表会」では、紙芝居やペープサートで伝えたり、知識が定着するようクイズを行ったり工夫をしていました。近年、行事食が伝わっていくよう

な場が減っている背景もあり、今後もこうした研究や授業開発を通して食の情報を発信し続けたいと思います。



(上写真)節分の説明用に作成 (右写真)ちらし寿司を紙で表現



調理実習では、安全・衛生を最優先とし「失敗しても大丈夫」と声をかけながら、スモールステップで調理への自信と意欲を育てます



西南学院大学
人間科学部児童教育学科
家庭教育 教授
おかだ
岡田 みゆき





西南学院History

【第12回／学院と新聞】

100年以上の歴史を誇る西南学院には、後世に伝えるべき歴史やストーリーがたくさんあります。このコーナーでは西南学院にまつわる歴史を紹介していきます。

創刊の熱き理想、今に継ぐ。 学生新聞が刻む西南学院史。

西南学院は雑誌や新聞、そして最近ではインターネットやSNSを介して、学内外へ向けて情報を発信してきました。それぞれのメディアや伝えられた内容から、その時代の学院の様子が垣間見られますが、その始まりはどのようなものだったのでしょうか。

校友会による定期刊行誌

旧制の中学部と高等学部には、それぞれ校友会という組織がありました。数年ごとに発行されていた『西南学院一覽』の1921年2月版^{※1}によれば、中学部と高等学部それぞれに設置された校友会は教職員と生徒で構成され、会長に院長、副会長に中学部長または高等部長が就き、各クラブから1名ずつ指名される部長と若干名の委員として生徒が参加するという構成になっていました。また、その目的を「品性を修養し身体を鍛錬し校風を振作し併せて相互の親睦を厚うするにあり」とし、学院設立から間もない時期で、まだ規

模が小さかった学校ならではの教職員、生徒をはじめとする学院を構成する人々の近さがうかがえます。

そして、この校友会の活動の一つが、中学部の『校友会雑誌』（第7号までは『校友会雑誌』）、高等学部の『西南』という定期刊行物の発行でした。これらの『校友会雑誌』や『西南』には、学内で行われた行事についての記事、文芸作品の投稿や各クラブの活動報告、教職員や生徒、卒業生の名簿、校友会の会計報告などが掲載されており、学校や在校生の活動の実態を知ることができました。

新聞事始め

1934年には、校友会が発行する機関誌とは別に、学生有志が毎月1回発行する「学生新聞」が創刊されます。学生新聞とは、いわゆる一般紙ではなく、広義での学校教育の一環としての「学校新聞」の一種で、特に高校や大学で学生が主体となり編集を行う新聞です。日本で最初の学生新聞

は、1917年5月に創刊された慶應義塾大学の『三田新聞』でした。科目としての新聞製作の実習などから発展し、1920年代に大学や旧制高校で次々に創刊されました。

『西南学院新聞』創刊号は1934年3月10日に発行、D4タブ判、全4ページというもので、当時商科3年で、新聞創刊の計画を提議した太田治雄、同級の佐々木剛や村上寅次らが編集に携わりました。孔雀をあしらった「祝創刊」の口絵が付され、太田の「創刊の辞」、水町義夫院長と小野兵衛神学部教授の寄稿、新理事長就任や制度改革など学院についての記事を報じる一面に続いて、離日する宣教師ウィリアムソンのメッセージ、部活動、文芸欄など多岐にわたる内容となっています。そして、印刷費に充てるため、有料の広告欄が設けられました（写真[■]）。また、同時期の写真から、紙面の編集だけでなく、印刷や配布準備など新聞発行全般にわたる作業を学生が中心となって手がけていたことが分かります（写真[■]）。

創刊3周年記念となった第25号（1937年9月9日刊）には、設立メンバーの一人だった村上が寄稿し、創刊号発刊当時の様子を次のように振り返っています。「本部は便宜上玄南寮の私の部屋であった。ニュース記事を書いたのは主として太田、佐々木剛（現福岡大毎通信局で活動している）それに私。スポーツ欄は村田賢一郎（現門鉄勤務）が書いた。野球部の植木君も之を助けてくれたように覚えている。カット、

広告図案は全部栗山義弘（現博多株式取引所勤務）がやった。その他、佐々木と栗山は広告の依頼を集めるのに一倍奔走してくれた。編集、割ツケなどの知識に関しては太田以外の連中は全く駄目であったのでほとんど太田の指図通りにやった。私は当時帰米せんとしていた宣教師ウィリアムソンの決別文を貸しい力で翻訳したことを覚えてい

る。満を持して創刊する新聞への熱気に満ちた様子が伝わってくるようです（写真[■]）。高等学部卒業後、創刊号の主要な編集メンバーであった太田や佐々木は新聞記者となり、村上は九州帝国大学卒業後、西南学院で教鞭を取り、第6代学長、第13代院長を務めました（写真[■]）。

また、西南学院のスクールカラーは同紙で公募が行われ、多数の応募の中から、1934年に現在も引き続き使用されている「テレベルト・グリーン」に決定しました。この案は、美術研究会に所属し、村上の寄稿の中でもカットや広告図案を担当したと紹介されている栗山によるものでした。この「テレベルト・グリーン」は、5月3日に審査会で採用されてすぐの5日に開催された高専リーグの福岡戦で、硬式野球部のストッキングとして早速使用されました。現在も硬式野球部のユニフォームに「テレベルト・グリーン」が使われています。（写真[■]）。

西南学院の「今」を伝える

戦後、旧制高等学部の『西南学院新聞』は、『西南学院大学新聞』に引き継がれましたが、学生紛争のあおりを受け、1971年7月10日付の刊行以降休刊となりました。一方でこの時期には、1960年4月に大学内のスポーツについて報じる『西南スポーツ』や1967年12月に『西南学院大学広報』が新たに創刊されます。その後、『西南学院大学広報』は1998年1月発行の123号をもって、冊子形式の季刊誌「SEINAN Spirit」に引き継がれ、最初の「SEINAN Spirit」（1998年6月）は「124号」として発行されました。また、かつての校友会機関誌や学生新聞での文芸欄も、中学校での「げんかい」や「若き西南」、高校での「西南」、「逃げきかな」といった文集、文芸雑誌に引き継がれています。

かつて、『西南学院新聞』創刊号の「創刊の辞」で語られた、「健全な言論機関を作って、学院と学生を、同窓生を、もっと緊密にしたい、学院独特の使命と理想を鮮り社会に認識させたい、と之れは永年の学生の希望であった。」という抱負は、現在もさまざまなかたちで学院の「今」を伝えることによって実現されているといえるでしょう。

※1 学院の沿革や規則、名簿などをまとめた冊子で、学院には1921、1922、1924、1925、1926、1928、1931、1935、1938、1940年に刊行された版が現存している。



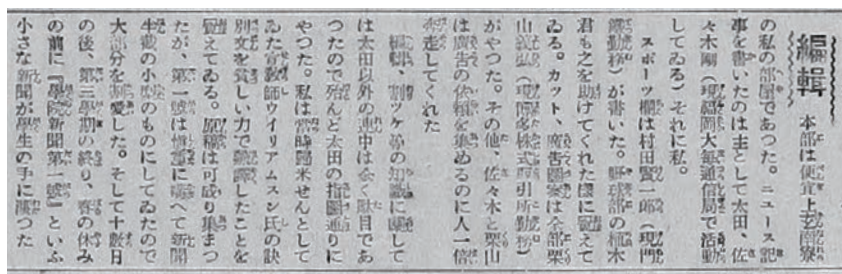
『西南学院新聞』創刊号（一面）



創刊号の2、3、4面



1940年の卒業アルバムに見られる新聞部



『西南学院新聞』第25号（一面）



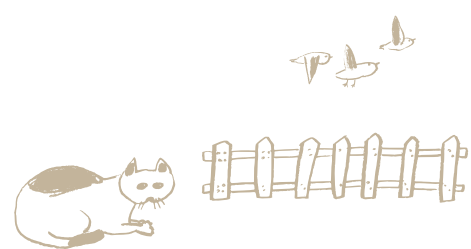
新聞部（1938年2月）前列中央に小野兵衛（新聞部部長）、その右隣に村上寅次



「テレベルト・グリーン」が使用された野球部ユニフォーム

卒業生を訪ねて

西南学院で学び、さまざまな場所や分野で個性を輝かせている卒業生の皆さんに、今のお仕事の話や在学中の思い出を語っていただきます。



時代が変わっても変わらない大切な食の価値を守り続けたい

カゴメ株式会社 九州支店長

まつゆき こうじ 西南学院大学 経済学部 経済学科
松行 康二さん 1992年卒業

1992年にカゴメ株式会社へ入社。東京・大阪を中心に営業職として勤務し、2024年10月より九州支店長に就任。九州・沖縄の卸店、小売業、ユーザーを中心にカゴメ商品の価値や野菜を摂取することの大切さを伝え続けている。

1992年にカゴメ株式会社へ入社して以来、ほとんどのキャリアを営業職として歩んできました。東京、大阪での勤務を経て、2024年10月に福岡へ戻り、現在は九州支店長として九州・沖縄の卸店、小売業、ユーザーなどにカゴメ商品の価値や野菜を摂取することの大切さを伝えています。60人弱の支店を率いる事業所長を務めるのは初めてですが、社内外への責任を感じながらも、社員やお客さまと近い距離で関われる九州支店での仕事は大きなやりがいになっています。東京や大阪ではあまり話題に上らなかった出身大学も、九州ではお客さまとの会話のきっかけになり距離が縮まることも多く新鮮に感じています。

私は、大学受験の際に一浪したのですが、先に現役で入学していた友人から聞く評判の良さに親しみを感じ、西南学院大学への進学を決めたんです。1989年に福岡市で開催された「アジア太平洋博覧会（通称：よかトピア）」で百道が盛り上がる様子を間近で見られたのは忘れられません。「よかトピア」開催を機に建てられた福岡タワーは今も福岡の顔の一つですね。

在学中は、家庭教師や健康ランドのフロント、ビアガーデンのスタッフ、塾講師など、さまざまなアルバイトを経験しました。サービス業でお客さまや社員の方々と接し、社会には多様な人がいることを実感できた経験が社会に出る上での土台になったと感じています。また、今はもうなくなってしまう、屋外活動のサークルに属し、大学祭でお化け屋敷や手相占いを企画したのも良い思い出です。サークルや学部の友人とは、卒業から30年以上を経た今もつながっています。

就職活動当時はいわゆるバブル期で、「好景気がずっと続くとは限らないが、人は食べないと生きていけないという事実は変わらない」と感じていました。当時の私は若く、

自身の食生活に気を配ることはなかったものの「せっかく食べるなら健康に良いものを」という思いを胸に、カゴメに入社したんです。

学生時代に学んだことで今につながるの、浪人時代の苦労を経て身に付けた、目的から逆算して行動する「段取り力」です。「もう勉強で苦労はしたくない」と感じ、大学では一生懸命に授業に取り組み、3年次までに単位を取り終えました。加えて、少年時代から続けていた野球でピッチャーとして培った「相手の心理を読む力」も今の仕事に生かされています。お客さまのニーズをつかみ、想定外の事

態にも柔軟に対応しつつ、自分の譲れない部分も同時に貫く。30年余りの営業経験で、数字だけでなく、継続的な関係づくりを大切にしてきました。

現場が好きで、これからも現場に近いところで働き続けたいという思いは変わりませんが、今は、後進の成長や活躍を見守り、自身の経験を還元していくことも喜びを感じています。西南学院で学ぶ皆さんにも、食と健康は日常の活動のベースであることを意識して食を大切にしつつ、多くの人と関わりながら、相手の話に耳を傾け、興味・関心のアンテナを高くしてほしいですね。応援しています。



西南学院の校旗に見守られての卒業式。



旧図書館前で友人たちと撮った思い出の一枚

今回のテーマは「伝え方」

学びの現場から

西南学院の大学・各学校・園・保育所では、学生、生徒、児童、園児の成長のために教職員が一丸となり、より良い教育を目指して日々さまざまな取り組みを行っています。

短く分かりやすい言葉を選び
伝わっているか
確認することも大事

一カシャ 学生に何かを伝えるとき、私が大切にしているのは言葉の選び方です。曖昧な表現ではなく、分かりやすい言葉を選び、できるだけ短く伝えることを意識します。「本音と建前」の「本音」を軸にする方が伝わりやすいように思います。

一興紹 幼稚園でも子どもにとって分かりやすい言葉選びを大切にしています。子どもたちは、友達と関わる中で「もう一生遊ばない」「もう友達じゃない」とつい強い言葉を使ってしまうことがあります。しかし、よく聞くとただ意見が違っただけだっただけという場合も多いんです。そういうとき、私たち大人は頭ごなしに止めるのではなく、「意見を聞いてほしかったんだね」と気持ちを受け止め、次に、せっかく自分の胸に芽生えた気持ちをどう言えば相手に伝わるか、子どもと一緒に考えます。

一カシャ 相手がどのくらい理解しているか、反応を確認しながら伝えることも大切ですね。私の外国語の授業では学生も英語を使いますが、都度内容がきちんと伝わっているか細かく確認します。テーマに合わせた複雑な議論を複数人でまとめていくのは母語ではない言語だと難しい部分もあるので、私も日本語でまとめたり、理解度に合わせてパワーポイントや動画を使ったり、想像しやすくする工夫もしています。

一興紹 視覚的教材は子どもたちにも欠か



舞鶴幼稚園
年中担任
こうろき みしお
興紹 美潮

西南学院大学
外国語学部 外国語学科 教授
ユスチナ・ペロニカ・カシャ

相手の気持ちを受け止め
伝わる形を一緒に考える

一興紹 伝える前に環境を整えることも大

切です。騒がしい環境で話してもなかなか伝わらないので、まず手遊びをして注目を集めたり、視界に動くものがない白壁を背景にして話すなど工夫したりします。小さな工夫一つでも伝わり方は変わりますね。

一カシャ 大学生でも、発表の場を整える必要があります。いきなり難しい発表をさせずに、まず学生同士で話す時間を設け、リーダーを決めてグループで意見をまとめます。人前で話すことに緊張する学生には、最初は先生の前だけで、次は友達と一緒になど、段階をつくります。

一興紹 幼稚園でも、みんなの前で話すのが苦手な子には「先生と一緒に言う？」と寄り添いつつ、自主性をもって臨めるようにサポートします。ただ、何も言わないと相手には伝わらないので、YESかNOだけでも伝えることの大切さは繰り返し話します。子どもが自分から「先生」と小さなことで伝えに来てくれたときは、まず「教えてくれてありがとう」と気持ちを受け止めるようにしています。

一カシャ 伝えることは、一方的に言葉を投げかけるのではなく、お互いに対話することです。沈黙に意味がある場合もありますが、相手がどう受け取るかを考え、反応を返し合うことは大切です。幼稚園でも大学でも、相手に届く形を考え、安心して言葉を交わせる関係をつくるのが伝える力、そして人と関わる力の土台になるのだと思います。



豊かなコミュニケーションには、母語と外国語の両方を理解することが欠かせません



子どもたちの理解を助けるため、素話ではなく、視覚教材を使って聖話を語りかけます



SEINAN GAKUIN information

～西南学院からのお知らせ～

2026年度 「第21回ホームカミングデー」 のご案内

西南学院大学では、卒業生の皆さまをキャンパスにお迎えし、懐かしい仲間と再会し交流・親睦を深めていただくために「ホームカミングデー」を開催しております。今年度は、以下の日時で開催いたします。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

日 時：2026年11月14日(土) 13:00～15:00
場 所：大学チャペル

※詳細は、ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ】
総合企画部 社会連携課 校友係
TEL:092-823-3952
E-mail:koyu@seinan-gu.ac.jp

「国際文化学科開設50周年 記念講演会・祝賀懇親会」 のご案内

国際文化学科では、学科開設50周年を記念し、記念講演会・祝賀懇親会を右記のとおり開催いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

日 時：2026年10月23日(金)
【記念講演会】15:00～17:00
【祝賀懇親会】17:30～19:30
場 所：【記念講演会】大学チャペル
【祝賀懇親会】百年館多目的ホール

主 催：国際文化学部

※詳細はこちらよりご覧ください。



2026年度後期 公開講座 「西南コミュニティカレッジ」 開講のご案内

西南学院大学では、あらゆる世代の「学びの場」として公開講座「西南コミュニティカレッジ」を実施しています。

2026年度後期は、9月から12月にかけて全10講座開講します。各講座についての詳細および申込方法については、大学ホームページでご確認ください。

西南学院大学 生涯学習 検索

【お問い合わせ】
総合企画部 社会連携課
TEL:092-823-3374
E-mail:sw-ext@seinan-gu.ac.jp



メールマガジン 「西南学院Letter」に ご登録ください！

メルマガ『西南学院Letter』は、西南学院のNEWSやイベント情報などをおよそ月に2回の頻度でお届けいたします。

ぜひご登録ください



※携帯電話のメールアドレスをご登録の場合は、ドメイン名「seinan-gu.ac.jp」からのメールを受信可能な状態に設定をお願いいたします。

公式SNSをフォローして “今”を知ろう！

西南学院大学・各学校・園の公式SNSです。ぜひフォローをお願いいたします。皆さまからのいいね！をお待ちしています。

大学



中学校・高等学校



小学校



舞鶴幼稚園



広報誌送付先変更の際は、
専用フォームもしくは
社会連携課(TEL:092-823-3952)へ
ご連絡ください。

高校卒業生
変更フォーム



大学卒業生
変更フォーム



SEINAN TOPICS

大学・各学校・園・保育所の近況

早緑子供の園(保育所)

花の日に花を持ち寄り お世話になっている方へ

6月の花の日に園児が家庭より花を持ち寄り、神様からの恵みに感謝し礼拝を守りました。また、日頃お世話になっている人へお花を届け、思いを寄せる機会となりました。0歳児クラスの子どもたちも、美しいお花にそっと手を伸ばしてみたり、不思議そうに見つめたり…色や形、香りを感じながら、花に親しむひとときでした。



神様、きれいなお花をありがとう

舞鶴幼稚園

ひかりの子文庫で たくさんの絵本との出会いを

図書室『ひかりの子文庫』には絵本や紙芝居、保護者向けの本など約3,000冊の本があります。39年前、子どもたちにたくさんの本に触れてほしいという保護者の願いから始まりました。毎日の降園後、親子で自由に借りることができ、親子でいろいろな本に出会い、温かな時間を過ごせる場所にもなっています。



親子で文庫貸出、どんな本があるかな？

西南学院小学校

ようこそ西南学院小学校へ ウェルカムピクニック

4月24日、1年生を歓迎するウェルカムアッセンブリと百道浜へのピクニックを実施しました。1～6年生の縦割りグループで、砂浜での遊びを思い切り楽しみました。下級生を思いやる頼もしい6年生と、その姿を見て学ぶ2～5年生、お兄さんお姉さんに囲まれて笑顔いっぱいの1年生。学年を越えた交流が生まれたすてきな一日でした。



帰り道はもっと仲良しに！

西南学院中学校・高等学校

みずほPayPayドーム福岡で中高合同の体育祭！ 「轟！！」をテーマに熱戦を繰り上げました

5月26日、みずほPayPayドーム福岡にて中学校・高等学校体育祭を開催しました。ドームでの中高合同体育祭も今年で4回目。今年は「轟！！」をテーマに掲げ、中高約2,000人の生徒が熱戦を繰り上げました。生徒たちは6色のグループに分かれ、自らデザインしたオリジナルシャツを身にまとい、集団演技や応援パフォーマンスを創り上げました。白熱した



チーム一丸となって協力する熱い姿

リレーや趣向を凝らした競技に加え、大型ビジョンや音響を活用した演出も会場を盛り上げ、ドームいっぱいに生徒たちの声援が響き渡りました。競技で競い合うだけでなく、仲間と協力しながら一つのものを創り上げる姿に、生徒たちの成長と中高一貫校ならではの一体感に包まれ、熱気あふれる一日となりました。



ブロック長、応援団長による選手宣誓

西南学院大学

拾得物を再利用する 西南リユースデー実施

7月8日、9日に所有権が大学に帰属した拾得物のうち、再利用可能な物品を学内に展示し、本学学生・教職員へ無償配布する本学初取り組み「西南リユースデー」を行いました。本取り組みは、廃棄物削減や物価上昇による学生の経済的負担の軽減を目的としています。当日は、傘や文房具、衣類などが配布され、多くの学生が会場に訪れました。



傘やハンディファンを手取る学生たち

西南学院大学サポーターズ募金ご協力をお願い

2018年4月から開始した西南学院大学サポーターズ募金では、寄付者のご意向に沿った目的に使用するために使途をお選びいただけます。皆さまのお気持ちが本学のさまざまな活動の大きな支えになりますので、ご協力をお願いいたします。

※この寄付金については、所得税法および法人税による減免税の措置を受けることができます。

選べる 使途の種類

1 | 大学給付奨学金 | 2 | 教育・研究活動支援 | 3 | スポーツ・文化活動支援 | 4 | グローバル人材育成支援 | 5 | ボランティア活動支援

寄付者銘板のご紹介

ご寄付をいただいた個人様、団体様、法人様のご芳名を刻銘した銘板を、西南学院百年館(松緑館)の1階に設置し、永く顕彰いたします。

銘板掲載対象

【個人】5万円以上
【団体】10万円以上
【法人】50万円以上
のご寄付をいただいた方



西南学院大学サポーターズ募金 お問い合わせ先

総合企画部 社会連携課 校友係
TEL:092-823-3952 FAX:092-823-3172
E-mail:koyu@seinan-gu.ac.jp

西南学院大学サポーターズ募金
ホームページはこちら▶▶▶



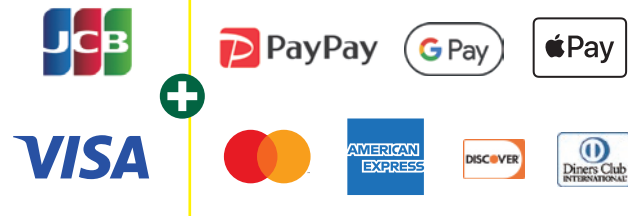
西南学院大学サポーターズ募金は、
以下の方法によりご寄付いただけます。

振込用紙(銀行またはゆうちょ銀行から)

所定の払込取扱票をご利用の上、お払い込みください。
払込取扱票をご希望の方は、社会連携課校友係までご連絡ください。

キャッシュレス決済

決済方法が増えました！



ご寄付は
こちらから



Seinan Vis Moot



口頭弁論指導費として活用させていただきました。

ハンドベルクワイア



クワイアチャイム購入費として活用させていただきました。

私と西南学院

このコーナーでは毎号テーマを設け、卒業生の皆さんから西南学院での思い出を寄せていただき、ご紹介します。

theme▼

お気に入りだった場所

旧 高校チャペル

(現 西南学院大学博物館)

高校チャペルの講壇左右に縦書の楷書で聖書の言葉が掲げられていました。左側の聖書の言葉はヨハネ3:16「神はそのひとり子を賜ったほどに…」この言葉で永遠の命があることを知りました。それから30年がたち、この言葉によってキリスト者とされ、今も大切な言葉です。(西南学院高等学校1973年卒業)

旧 大学チャペル(ランキンチャペル)内の

チャペルクワイアの部室

授業がない時には、よくチャペルに行ってチャペルクワイアの部員と話したり、小さな声でハモったりしていました。落書き帳という部内ノートにみんながいろいろと書いたことを覚えてます。4年間在籍し、2年次以降の入学式、卒業式(4年次)にはチャペルクワイアのメンバーとして讃美しました。(西南学院大学1976年卒業)



▲ランキンチャペル外観

こちらより回答
お待ちしております



■次号春号に向けて「青春の一曲」を募集！西南学院に通っていた当時によく聴いていた音楽と思い出のエピソードをお寄せください。(募集締切：2026年11月30日(月))▶